

協和精工株式会社



至高の技が息づく
100年後も語れるものづくりへ

左-HORIZON / 右-HORIZON midsize

1963年、東京で精密工具メーカーとして創業し、1973年に創業者の地元である秋田県湯沢市に工場を設立。前例のない最小刃径0.1mmのcBNボールエンドミルを実用化する等、高度な技術で国内外のものづくりを支える。2005年には自社オリジナル国産腕時計ブランド「MINASE」を創設。最高峰の匠の技をもって世界に挑む。

1本のドリルから始まった世界への挑戦

「MINASEブランドの原点は、50年以上前に生まれた1本のドリルでした」。

精密工具メーカーとして1963年の創業以来、高い技術力により国内外のものづくりを支えてきた協和精工株式会社が、自社オリジナル国産腕時計ブランドとして2005年に立ち上げた「MINASE」。そのルーツは、創業者である先代社長・鈴木耕一最高顧問が50年以上前に開発した1本のドリルにあった。

「ある時計メーカーから、通常は複数回の工程が必要なリュウズ(時計の針を動かす部分のつまみ)の穴を、一度で開けられるドリルが欲しいと依頼があったのです。当時の日本には、精密さと耐久性を両立させたドリルは存在しませんでした」。

存在しないからこそ、独自の経験と技術だけで作り上げなければいけない。試行錯誤の結果、難易度の高い注文に見事応えて完成した段付きドリルを皮切りに、協和精工は時計製造事業の一步を踏み出した。

「穴開け、ケースの切削と鍛造、ブレスレット製造に研磨。時計製造に関するあらゆる工程を手掛けることとなりました。技術力が高まるほど、さらに難しく複雑な要望が来る。その加工に必要なドリルや治具を自分たちで作出す。積み重ねた経験の全てが、今に繋がっています」。

匠の技が叶える唯一無二
100年後も語れるものづくりへ

全ての道程が順風満帆であったわけではない。バブル崩壊により、主力となっていたケースメーカーとしての受注は激減。若き鈴木社長は、時代の流れを読み取ることで完成品のOEM製造に舵をきり、この危機を乗り越えた。

「時代の変化に振り回されないためには、自社ブランド商品を持つ完成品メーカーとして自立することが不可欠である、経営者としてそう考えるのは必然でした」。

機械式腕時計メーカーとして打って出る基盤は整っていた。ケースづくりで蓄積したノウハウは、伝統ある高級ブランドが

ひしめくスイスでさえ途絶えつつある至高の技「ザラツ研磨」を可能にした。他にも、ケース、ダイヤル、ムーブメントの見せ方を再構築した独自の「ケースインケース構造」や、特許を取得した「MORE構造」等、世界最高峰の技術が次々と生み出された。特にMORE構造は、日本の組木細工をヒントに、ケースやブレスレットなど全ての部品を何度でも分解組立できる画期的な設計。永続的なアフターメンテナンスを可能にしたこの構造こそ、MINASEが100年後も使えることを謳う所以だ。こうした優れた工具と治具、製造ノウハウに裏付けされた確かな品質と類い希なるコンセプトは、瞬く間に業界に知れ渡った。

「ブランドとは信頼の証。どこを切り取っても一貫した理念を醸し出し、佇まいひとつで自分が何者であるかをはっきり示すことが重要です。私たちは100年後も語り続けることのできるものづくりを目指しています」。

どんなに難しい要求でも諦めずに挑戦し続けてきたからこそ、今がある。成長の原動力となった挑戦の歩みを緩めず、日本の緻密なものづくりや美意識を牽引するブランドでありた

い、その思いが鈴木社長を衝き動かす。2011年には外部から専門の技術者を招き入れ、プロジェクトチームを結成。唯一、ノウハウが欠けていた時計の「心臓」とされるムーブメント(駆動装置)の自社開発に乗り出し、2017年、念願のオリジナルカスタムムーブメントを搭載した「Seven Windows」をもって、機械式腕時計の本場・スイスへの進出を果たした。

見据えるは2本柱の融合
世界が認めるMINASEへ

切削工具と機械式腕時計の製造。協和精工を支える2つの事業が好調に推移する中、鈴木社長が経営課題の筆頭に挙げるのは技術の継承だ。卓越した技術力で勝負しているからこそ、技術の継続性と革新力は経営の根幹に関わる。ここ数年、「MINASE」に惹かれて、時計づくりを志す県内外からの就職希望者も増えているが、技術は一朝一夕で身に着くものではない。中長期的な技術者の育成プランはブランド構築のプランと表裏一体であり、鈴木社長は現場と顧客のもとを頻りに往来しながら、常に明日の姿を考え続ける。

「大量生産に向かないMINASEだからこそ、世界を相手に希少価値・パーソナル化に重きを置いたブランド戦略を取ることができます。例えば、完全オーダーメイドによる受注生産が出来る時計ブランドがあっても良い。お客さま一人ひとりの細かいニーズを技術で具現化できる企業でありたい」。

自社の切削工具と腕時計のシナジーをさらに追求し、いずれは自分たちが開発した工具でなければ作れない腕時計を作りたい。そう語る鈴木社長が信じるのは、技術への飽くなき探究心を持つ挑戦者たち。世界でただひとつ、100年後も語り続けられる時計が、今日もこの皆瀬の地から、生まれてゆく。



1 切削工具メーカーとしても発展を続ける。得意分野はカスタム工具の開発。 4 MINASEの原点である段付きドリル
2 オリジナルムーブメントを秘める世界進出モデル「Seven Windows」 表紙 全工程のザラツ研磨を行える MINASE 唯一の匠・高橋さん
3 職人の微細な感覚だけで歪みのない美しい鏡面を生むザラツ研磨



協和精工株式会社

◆本社工場:切削工具製造工場
〒012-1103
秋田県雄勝郡羽後町林崎字三ツ盛34-1
TEL. 0183-62-4566
FAX. 0183-62-2030

◆皆瀬工場:腕時計製造工場
〒012-0183
秋田県湯沢市皆瀬字上小保内3
TEL. 0183-46-2126
FAX. 0183-46-2800
<https://kyowaseiko.co.jp/>

●創業/1963年
●資本金/1,000万円
●従業員数/86名
●営業品目/精密刃工具製造販売、
腕時計製造販売

代表取締役社長
鈴木 豪
すずき たかし